

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の心身の安定を図る」他に年度ごとのユニット目標も立てている。	事業所の理念を具現化するためにユニット毎に職員が話し合い、利用者を思いやり安心して楽しく過ごせる目標を掲げ年度末に振り返り、目標の達成を評価し次年度の目標につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入している。年間行事や清掃作業等に利用者と共に参加している。	町内会に加入し、回覧板から情報を得て地域の行事や清掃活動にも利用者と一緒に参加している。小学生が帰りに寄ってくれ中学生が体験学習で職場見学に来たり園児やボランティアの慰門を受け入れ、地域との付き合いを大事にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて民生委員、自治会会長、市役所に対して発信している。一般の方の見学など積極的に受け入れるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告等、参加者からの意見・要望などの実践に努めている。	運営推進会議は行政職員、区長、民生委員、利用者・家族の代表がメンバーでありグループホームや認知症を知ってもらい、意見交換している。災害時の協力関係づくりをしたらどうかという提案がある。学校や消防署にも働きかけたいと考えている。	運営推進会議を活用して、区長や民生委員、PTA、消防職員等の協力を得て地域との繋がりを深め、利用者の安心・安全を確保するとともに更なるサービスの質の向上に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要があれば連絡を密に取り関係構築に努めている。	行政の担当者とは事ある毎に連絡や相談をしており良好な関係にある。市民からの問い合わせに対して当事業所を紹介してもらったり、行政の依頼で介護教室を共催したこともある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施しており、職員がきちんと理解している。日常の業務の中でも意識できるように心掛けている。	日中は玄関を開放し、室内にはセンサーが取り付けられており利用者が出て行きたい時は職員も一緒に出ている。基本的には行動を抑制することはないが、ことばの使い方等気になる時は事例を用い検討している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施しており、職員がきちんと理解していて防止に努めている。	身体拘束と共に研修を行い防止に努めており、利用者ひとり一人の状況により言葉使いも方言が良い時もあり、馴れ馴れしすぎることあり、利用者に応じて使い分けている。皮膚にアザがあった時等は状況を確認し、家族とも情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の事例も発生しており、今後も学んでいきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面での説明、見学を通して納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見や要望等受け入れるように努めている。本社においても相談窓口を設けている。自治体の相談窓口のことも説明している。	意見箱は設置しているが直接行ってくれる家族が多く、家族からの意見で、事業所の行事案内を早く知らせてほしいとのことから年間計画を提示しており家族が参加しやすくなった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・個人面談等は随時行っている。他に日常の中でも話せる機会は持つようになっている。	職員は意見や要望があればいつでも管理者や計画作成担当に話している。毎月のユニット会議や毎朝のミーティングでも問題があればその日のうちに解決するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声に耳を傾けるようにしている。資格取得の支援、キャリアアップなどの整備にも努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所において年間計画を立てて行っている。外部研修も出来るだけ参加するよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ツクイ内他事業所間で管理者、計画作成、介護職員の交換研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実際の利用前より意見に耳を傾け、不安を出来るだけ取り除けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の不安や望むことなどをきちんと聞き解決に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ時間をかけるようにして、きちんとニーズを把握できるようにしている。また他のサービス利用も選択肢に含め対応するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話や活動を通して他者との関わりが持て、関係が築けるよう支援している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会・外出や外泊は可能なことを伝えている。	家族が負担にならない程度に利用者の支援をしてもらい、関係が途切れないようにしている。毎月広報誌を送付時に利用者の様子を知らせたり、熱のある時家族が一晩付き添い介護したりと、共に支えている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家と施設、地域をいつでも行き来できること、支援することを伝えている。	ホームセンターやコープに買い物に行き、近所の人や同級生に会って立ち話をしたり、馴染みの理・美容院に行ったり、毎年祭りや花見にも出掛け馴染みの関係が続いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人が出来ることは出来るだけしてもらう。出来ないことをお互いに助け合ったり支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば連携しながら支援するように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思決定を基本に考えている。それが難しい場合には何が良いかをきちんと話し合い支援に努めている。	個々の意向に添い、園芸作業・手芸品作りの他、昨年より職員と一緒に自分史としてアルバム作りをしている。昔と今を比べながら、会話に出て来る所の写真を貼ったり、楽しみながらの作業は、家族にも好評である。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の状況把握、それ以降も情報収集に努めている。	入居前から何かしらの介護サービスを受けており、月1回位、介護支援専門員や家族から情報収集している。プライバシーを考慮に入れ、ケアに生かせる様、細部に関してまで具体的に情報を伝えてもらい、地域の人の力も借りながら継続的に行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の心身の状況を観察し、必要に応じて対応するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	きちんとカンファレンスを実施している。家族にも内容について理解してもらえるよう努めている。希望があればいつでもいってもらえるようにしている。	アセスメントでの情報と家族の意向をもとに、職員全員で月1回カンファレンスをしている。利用者がその人らしい生活が送れるよう、関係者全員の意見やアイデアが反映された、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ状況を記録に残すようにしている。また、実際のケアに取り入れていくよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出等、本人・家族の要望には出来る限り対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の子供たちに気軽に立ち寄ってもらえる。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診がある。その他、気軽に相談できる関係が築けている。	利用者や家族との話し合いで、かかりつけ医か協力医か、希望に応じて受診している。日常の様子は事業所で把握している為、受診や通院介助は職員が対応しているが、必要に応じて家族の同行もあり、情報の共有はなされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が勤務しており、きめ細かく柔軟な対応ができる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の事例が何例もあり、お互いに良い関係が築けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の段階で説明はしている。それ以降も状況が変化した時や、質問などあった時は説明をしている。	事業所内で出来る事を明確にしており、利用者の状態に応じて段階的な支援を行っている。重度化の事例は無いが、利用者、家族、かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師・看護師の指導の下処置を行っている。マニュアルを整備している。	応急手当や初期対応のマニュアルは整備されている。医師・看護師・又は消防署よりの研修も行っているが、初期対応の訓練を含め、実際の場面で活かせる技術には至っていない。その為不安に思う職員もいる。	応急手当、AEDや初期の対応など、すべての職員が定期的に訓練を行い、その後の連絡、対応方法などについても想定し、体験、習得出来る様周知徹底を図っていかれることが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は実施している。共同の訓練は実施していないが、協力してもらえるよう話はしている。	災害を想定した実践的な訓練は、昼夜を通じて取り組んでいる。備蓄や防災セットの物品類も準備してあるが、隣接する同事業所内の施設とは共同訓練はなされていない。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、訓練を繰り返すことが大切だ。いざという時、慌てず確実に出来る様、地域住民の参加・協力を得ながら、年間を通じた定期的な訓練を繰り返すことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った、その場面に応じての対応を心掛けている。	年長者としての人格を尊重し、言葉掛けの語調など強くないよう注意している。記録物は少し離れた所でさりげなく記録し、部屋の前の名札も本人が描いた絵等で利用者が認識出来る様、取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人自信が出来るだけ表現できるよう言葉掛けなどで支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけその人が安心して過ごせるよう、その日の状況によって対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を聞き本人に決定してもらうよう支援している。美容師によるメイクサービスも利用できる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から食事後片付けまで出来ることはしてもらっているようにしている。	栄養士が献立を作り、それに添って各ユニットで作っている。年間行事では特別に好きなものを作ったりして、食事を楽しみなものとしている。食事を作る一連の作業は、食事への関心を引き起こす為にも、出来る人にはしてもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量やペースに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、必要時の歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで自分で行えるよう考えている。オムツ類の使用は極力避けている。	排除チェック表あり、日中は全員布パンツにし、一人一人のサインを全職員が把握し、さりげなく配慮をしながらトイレ誘導をしている。夜間は睡眠や冷えなど考慮に入れ、紙オムツの使用など無理せず自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日でも入浴できる。時間は午後から夕方までで行っている。	一人ひとりの希望に添った入浴が行われている。現在は午前中や夜間の希望者はいない。同姓介助希望される利用者にはそのように対応している。1対1での浴室では、リラックスでき本音が聞かれる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中は離床してもらい適度な活動をしてもらう。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をもとに理解・把握に努め、支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に希望を尊重し、その人に応じたものを提供しよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出を心掛けている。遠出も実施している。	外出は職員、利用者共に 気分転換やストレス発散の機会ととらえ、お茶飲み・花見等時間が有れば、出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理でお願いしている。希望があれば買い物に出かけている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>基本的にいつでも利用できるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースには季節感を感じてもらえるような掲示やレイアウトに配慮している。</p>	<p>フロアの一角は畳敷きになっており、段差もなく、ソファが置かれ、利用者同士の会話がはずんでいる。季節を感じさせる花や絵、手芸品等すっきりした掲示は配慮が見られ、自宅でのんびり、くつろげる、雰囲気がかもし出されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子やソファを、畳を配置し自由に使うてもらえるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>基本的に何でも持ち込み可能。愛着のあるものを持ってきてもらっている。</p>	<p>居室は明るく陽射しも多い。利用者は家族と相談の上長年使い慣れた、ベッド、テーブル、家族の写真等思い出の品々を持ち込み、自宅の暖かさ其のまま居心地良い配置となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>急がず、ゆっくりでも行えるよう支援している。</p>		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					